

広義遮閉(おおい)試験; Cover testでの注意点

○準備物

1. カバーするもの 平井淑江:視能学 P316 参照

- ・通常→黒
半透明(被検者のカバー内の眼の動きが判る)
- ・子ども→手(指の間から見えないように注意!) 親指

2. 目標にするもの

- ・光源→ペンライト 調節性輻湊のコントロールがうまくできないと言われている(過剰になったり不足したり)
- ・調節視標(ピントを合わせてみることのできる者)→0.7 ランドルト環(所持視力の一段上の文字・数字・ラ環)など
- ・子ども→まんがキャラクター・動くおもちゃ・母親など

3. 定量するもの

- ・プリズム(ブロック、バープリズムなど)

○検査距離

- ・遠見眼位→5m 1m
- ・近見眼位→33cm

○両者の注意点

- ・被検者の視力→矯正視力(0.1)以上
- ・検者の位置→正中位を原則として向かい合い、両者の視線がなるべく同じ高さになるように
(遠見は検者の頭の高さに注意。見えているか確認すること。)

○手技の注意点

全体的に

- ・カバーのはずし方→鼻側方向にはずす(被検者がカバーの方向を見てしまうことをなるべく防ぐ)
- ・次のカバーのタイミング→斜視眼が固視目標をとらえる間を与えること。視線がきちんと固視目標に向いているかに注意をはらうこと。)

cover—uncover の場合

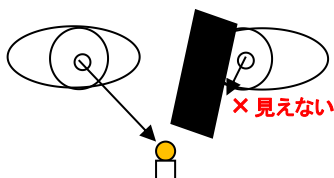
通常、融像をあまり妨げず、両眼開放時間を長くして、ごく短時間(2、3秒)遮閉することが多い。
(十分両眼視させる、ただし、検者が被検者の眼の動きをとらえる以前に両眼視させないこと)

交代 cover の場合

片眼遮閉時間を長くして、全偏位量(安静位の分も)を出す(十分融像除去する)

○その他の眼位検査

視能学 P318 参照



- ・ screen—comitance test 遮閉下の眼位を調べる方法。

(カバーを顔面に対して傾け、被検者からは片眼のみに目標が見え、検者からは両眼が見えるようにして両眼の眼位の比較をする。

+20D(拡大して便利)装用でも同様の効果。眼振・交代性上斜位での検査、眼球運動検査における下斜筋過動の検出に有効)